

第3章 計画の基本構成

1

望ましい環境像

「望ましい環境像」とは、四街道市環境基本条例の基本理念を実現するために本市が目指す“未来の環境の姿”です。

前計画では、都心から40km 圏内にありながら貴重な自然が残され、人々の生活と自然が近接している本市の特色を将来の世代に伝え、守っていくことを表すものとして、「みどりと都市が調和した心地よく暮らせるまち」を望ましい環境像として掲げ、施策を推進してきました。

自然環境と都市環境の調和した住みよいまちづくりを、行政だけでなく市民・事業者のみなさんの参加のもと進めていくというメッセージが込められたこの望ましい環境像を継承しつつ、地球規模の課題に的確に対応する持続可能なまちづくりの実現を目指すため、新たな環境像を設定します。

未来へつなぐ

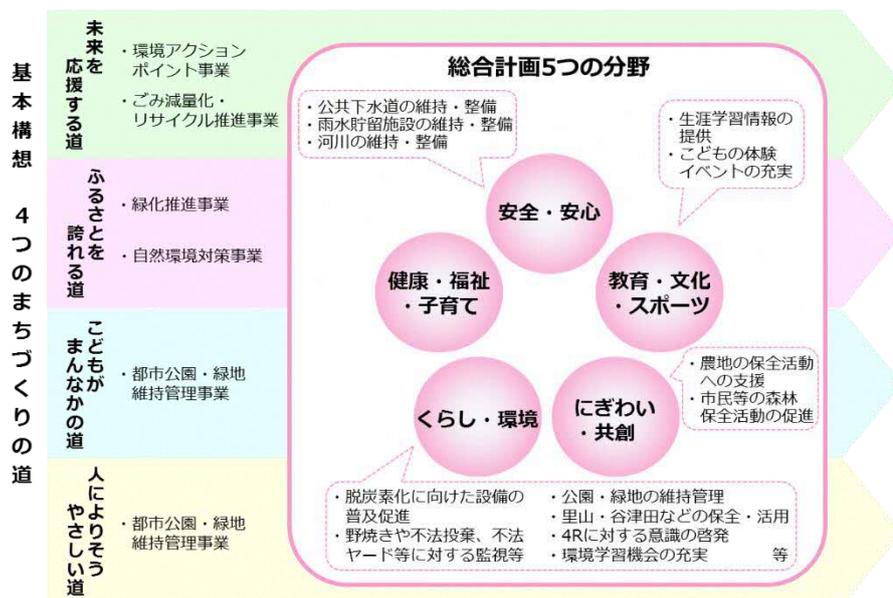
緑と都市が調和した地球にやさしいまち

コラム：新たな四街道市総合計画

市では、令和6年度から令和25年度までの20年間の期間とする新たな基本構想を策定し、新たなまちづくりの方向性を「幸せつなぐ 未来への道しるべ」と定め、4つのまちづくりの道を設定しました。

また、4つのまちづくりの道を踏まえ、今後の取り組み方針を示す四街道市の最上位計画として、「四街道市総合計画第1期基本計画」を策定し、5つの分野ごとに政策・施策を体系的に定めました。

基本構想・総合計画における環境に関する取組みの位置づけ



2

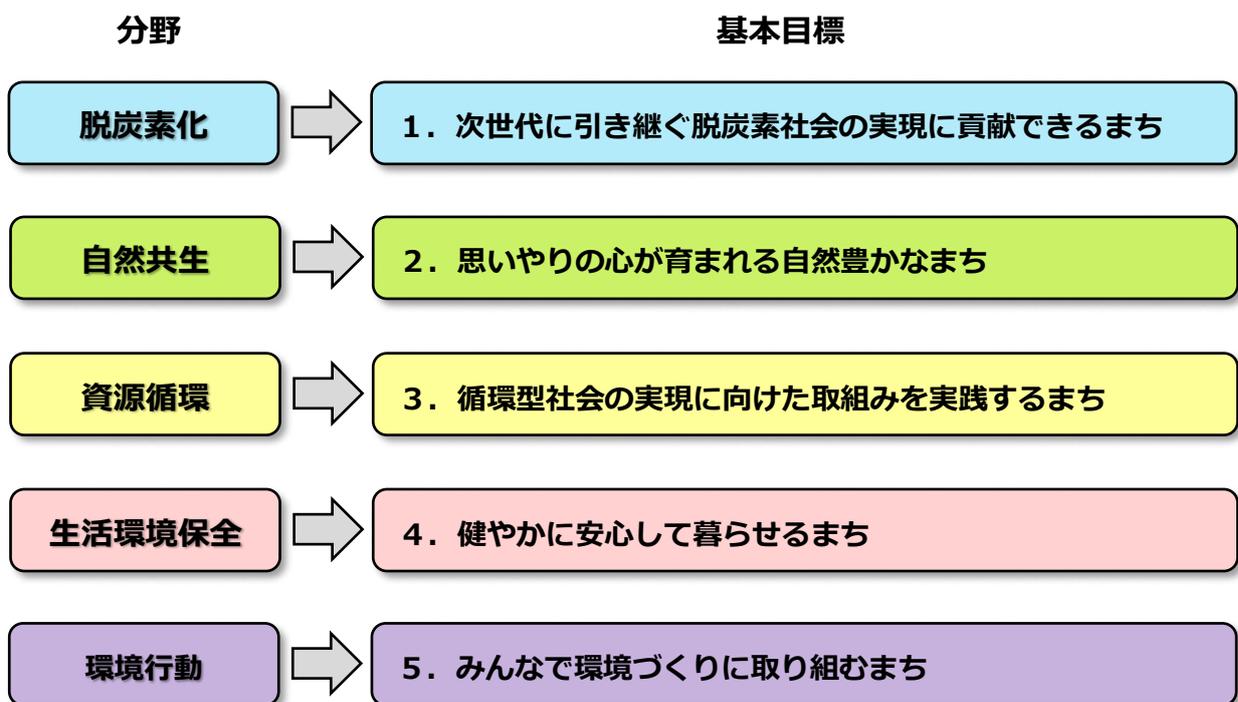
基本目標

本市が目指す望ましい環境像『未来へつなぐ 緑と都市が調和した地球にやさしいまち』の実現に向けて、5つの分野ごとに基本目標を設定します。

5つの基本目標は、本市の環境を取り巻く現状を評価し、課題の整理を行い、この課題解決を図ることで、各分野の目指すべきまちの姿を具現化するものとして導き出しています。

望ましい環境像の実現を支えるための5つの柱として、「基本目標1 次世代に引き継ぐ脱炭素社会の実現に貢献できるまち」、「基本目標2 思いやりの心が育まれる自然豊かなまち」、「基本目標3 循環型社会の実現に向けた取組みを実践するまち」、「基本目標4 健やかに安心して暮らせるまち」、「基本目標5 みんなで環境づくりに取り組むまち」を設定します。

図表 3.1 分野と基本目標の関係



3

施策

本計画では、基本目標を実現するための施策を設定します。

図表 3.2 基本目標と施策の関係

基本目標	施策
1. 次世代に引き継ぐ脱炭素社会の実現に貢献できるまち	⇒〔1〕省エネルギー化の促進 〔2〕再生可能エネルギーの利用促進 〔3〕脱炭素型まちづくりの推進
2. 思いやりの心が育まれる自然豊かなまち	⇒〔1〕生物多様性の保全 〔2〕みどり・水辺の保全
3. 循環型社会の実現に向けた取り組みを实践するまち	⇒〔1〕4Rの推進 〔2〕ごみの適正な処理の推進
4. 健やかに安心して暮らせるまち	⇒〔1〕安全・安心な生活環境の保全 〔2〕気候変動適応策の推進
5. みんなで環境づくりに取り組むまち	⇒〔1〕環境教育・環境学習の推進 〔2〕協働による環境保全活動の推進

4

市民・事業者・市の取り組み

施策ごとに市民・事業者・市の取り組みを示します。

市の取り組みでは、計画のリード役となる主要な事業を洗い出し、SDGsの観点から環境課題の解決だけでなく、経済面・社会面においても相乗的・副次的な効果が期待されるものを重点取り組みとして位置づけます。

図表 3.3 四街道市の将来イメージ図



※1 ZEB : p.46 参照

※2 V2H : p.50 参照

5

成果指標

施策の実施効果を検証するため、成果指標を設定します。

望ましい環境像	基本目標	施策
未来へつなぐ 緑と都市が調和した地球にやさしいまち	1 次世代に引き継ぐ 脱炭素社会の実現に 貢献できるまち 	[1] 省エネルギー化の促進 [2] 再生可能エネルギーの利用促進 [3] 脱炭素型まちづくりの推進
	2 思いやりの心が育まれる 自然豊かなまち 	[1] 生物多様性の保全 [2] みどり・水辺の保全
	3 循環型社会の実現に向けた 取組みを実践するまち 	[1] 4Rの推進 [2] ごみの適正な処理の推進
	4 健やかに安心して 暮らせるまち 	[1] 安全・安心な生活環境の保全 [2] 気候変動適応策の推進
	5 みんなで環境づくりに 取り組むまち 	[1] 環境教育・環境学習の推進 [2] 協働による環境保全活動の推進

成果指標		
指標	現状値	目標値
市域の二酸化炭素総排出量	415 千 t-CO ₂ (2020 年度)	241 千 t-CO ₂ 以下
市域の再生可能エネルギー導入容量 (累計)	25,979kW (2021 年度)	37,300kW 以上
市域のクリーンエネルギー自動車 [※] の登録台数 (累計) [※] 原付 EV を除く	209 台 (2021 年度)	415 台 以上
ホテルの生息 (確認) 数	988 匹 (2022 年度)	毎年度 1,000 匹 以上
自然環境保全地区の数	新規指標のため 現状値無し	3 箇所 以上
自然環境に満足している市民の割合	38% (2022 年度)	50% 以上
1 人 1 日あたり総排出量	765g/人・日 (2022 年度)	755g/人・日 以下
1 人 1 日あたり家庭系ごみ排出量	516g/人・日 (2022 年度)	495g/人・日 以下
リサイクル率	21.7% (2022 年度)	23.9% 以上
可燃ごみ中のプラスチック混入率	26.8% (2022 年度)	9.4% 以下
生活環境 (大気、騒音、振動等) に満足している 市民の割合	40% (2022 年度)	50% 以上
生活排水処理率	95.9% (2022 年度)	95.9% 以上
気候変動の影響に備えている市民の割合	新規指標のため 現状値無し	2027 年度実施予定の 調査より 10%以上アップ
環境学習参加人数	173 人 (2022 年度)	1,300 人 以上
自然環境保全活動ボランティア参加人数	47 人 (2022 年度)	180 人 以上
普段から環境保全活動に取り組んでいる市民の割合	50% (2022 年度)	60% 以上

